

観光施設メディアラボ

公益社団法人国際観光施設協会編



南 三一郎
南三一郎建築設計工房 主宰

今、伝統工芸の素材・技術を生かし、現代のライフスタイルに合わせた新しいデザインのプロダクトが創り出され注目されています。国際観光施設協会インテリア分科会は、建築・インテリアに深く関わりを持つ伝統工芸とその素材や部材に目を向けて、その新しい方向性を探り生かしていきたいと考え、伝統工芸の工房や現場を探訪する企画を起こしました。1回目は和風建築に繊細な彩を加える「組子」に注目し、その現代性に視点を向けました。

組子は細く加工した材を幾何学的に構成し、障子や欄間の意匠に彩を与える伝統的な技法です。写真1は加賀の蘇梁館（江戸期の旧久保彦衛門家の移築）に見る書院障子の組子で、豪商

の客間にふさわしい権勢発露と洒落った気を醸し出しています。写真2のように障子のみならず、硝子戸にも意匠が施されているのが興味深いところです。

このような建具意匠は東洋的な起源を持っていると考えられます。写真3は中国・蘇州で見た伝統的家屋の開き戸に施された意匠です。

今回は組子の製作過程を知るために、木製建具メーカーの阿部興業(株)のショールーム（新宿御苑）を訪れ、その技法等について拝聴しました。阿部

協力工場を持つ体制です。

組子の子という字は、木の変字で正しくは組木といわれます。組子とは一般に障子や欄間、書院などの建具を構成する細かい部材のことで、一般には棧と呼ばれるものより細い部材のことを言います。組子細工は、切込みを入れた細い棧を釘やビスを使わず、手作業で組み合わせて何種類もの模様を作ります。建具の中でも組子細工は特に精密な作業と言えます。

以下写真4に、今日カタログに掲げ



写真1 蘇梁館書院

興業は現在、組子、障子、格子、フラッシュの4種の工種を基幹とし、埼玉県小川町の100軒の製造工場のうち40軒と提携を持ち、さらに鹿沼にも



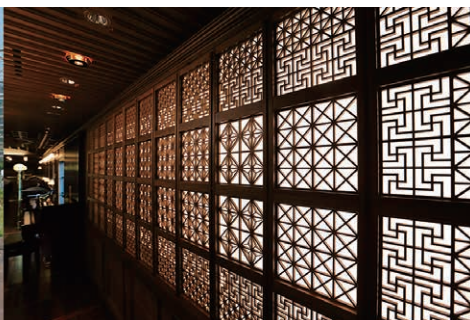
写真2 蘇梁館 縁

られている組子の表情をいくつか採録し、その技巧を見てみることにします。伝統的な意匠としては図1（寺社の格子）のようなものがあります。

組子細工の基本的なものは実例でも見られるように、三組手と呼ばれる正三角形の構成をベースにした部材の組み合わせです。図2に組子プロセスの構成を示します。見付は4mmから9mm程度を標準とし、材の組み合わせはかみ合わせと澱粉糊による接着によるものです。材は杉、桧を基本としますが、実例に見るようにさ



写真5 ななつ星 外観およびラウンジカー内装の組子パネル JR九州HPより転載



第5回 新しいインテリアデザインに生かしたい 伝統技術とデザイン 1. 組子

公益社団法人 国際観光施設協会 技術委員会 インテリア分科会
南三一郎建築設計工房 主宰

南三一郎

らにスプルーやヒバなどを組み合わせ、意匠性を高めることも可能です。

組子細工は現在ではNC工作機（コンピューター制御の加工機械）を活用して、さらに細密な加工が短時間でできるようになりました。組子の一部が欠損しても、その部材位置が特定できれば、ほぼ同寸の交換部材がすぐ調達できるとのことです。もともと注文制作であり、枠全体の寸法調整は組子寸法そのものによりますが、付縁によっても寸法調整は可能です。



写真3 蘇州にて

書院のあるような日本間の需要の少なくなった今日、

組子細工の活路は大きいものではないと思われま。写真5はJR九州版オリエント急行として評判となった「ななつ星」に採用された光障子です。このように光壁や光天井、照明器具の行燈部分など、組子という伝統技法の活用を、昨今の和モダンブームの中に新しい意匠的展開として図りたいものです。

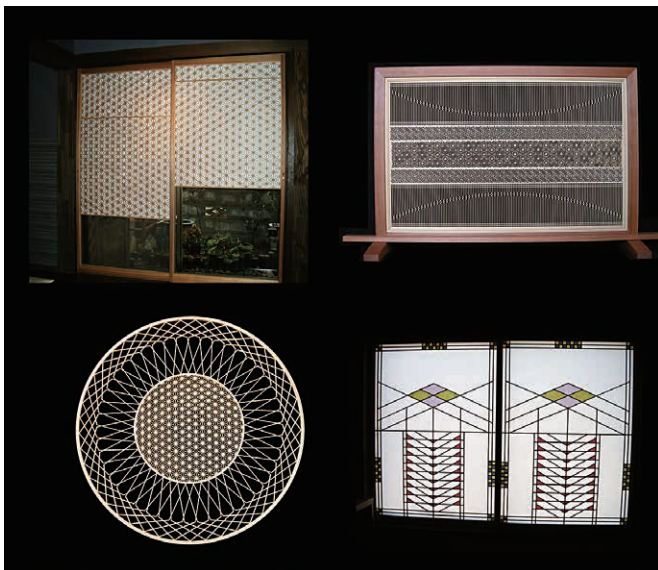
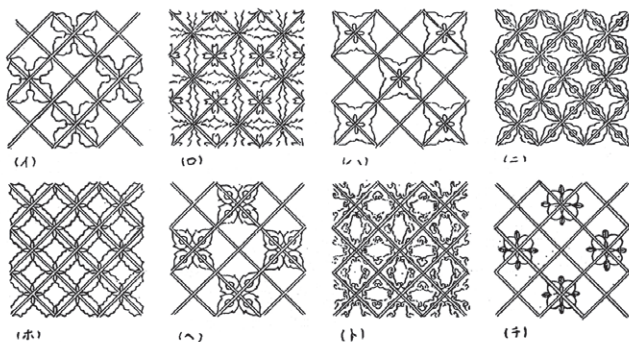


写真4 実例 阿部興業株式会社提供



- (イ) 京都北野天満宮
- (ロ) 京都二条離宮
- (ハ) 銀閣寺東求堂
- (ニ) 東京上野蔵右院
- (ホ) 東京芝大徳院
- (ヘ) 京都清水観音
- (ト) 京都西本願寺
- (チ) 高山寺開山堂

図1 古代花形組子参考図

組子細工で使われる基本のかたち 三組手



組手(くで)と呼ばれる加工をしたものです。
1と2を組み合わせます。

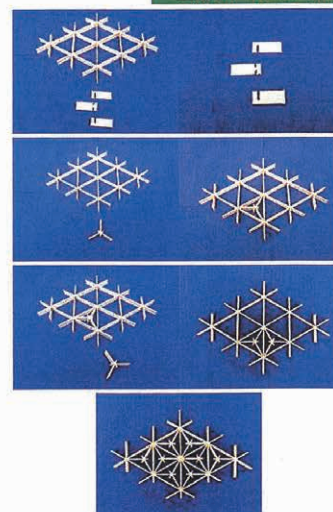
組み合わせたものと3を組あわせませ。

この組手が三つ組み合わせられたものを
三組手(みつくで)といいます。

三組手に組手を組み合わせ
たくさんの正三角形を作っていきます。

これらの三組手が様々なかたちの組子細工を
組むためのベースとなっていきます。

三組手に小さな三組手を組み 桜亀甲へ



小さな組手で小さな
三組手を組んでいきます。

できあがった小さな三組手を
大きな三組手の三角形にはめていきま
す。

つづけて先ほどの作業を
すべての三角形に行います。

このようなかたちの模様ができあがりま
す。

このかたちを 桜亀甲(さくらぎょう)とい
います。

図2 三組手技法 石川善行氏 HPより転載